デナリ（６１９４ｍ）報告書

May.29th～June.30th

行動概要

５月２９日	日本発
５月２９日	（現地時間）アンカレッジ着
５月３０日	登山準備
５月３１日	アンカレッジ～タルキートナ～ランディングポイント
６月　１日	登山開始　L.P.～C１
６月　２日	C１～C２
６月　３日	C２～C３
６月　４日	C３より荷揚げ
６月　５日	沈殿
６月　６日	C３より荷揚げ
６月　７日	C３～B.C.
６月　８日	レスト
６月　９日	B.C.より荷揚げ
６月１０日	〃
６月１１日	レスト
６月１２日	〃
６月１３日	〃
６月１４日	B.C.～A.C.
６月１５日	A.C.～山頂～A.C.
６月１６日	A.C.～B.C.
６月１７日	B.C.～C１
６月１８日	C１～L.P.～タルキートナ
６月１９日	タルキートナ～アンカレッジ
６月２０日～	アラスカ観光（別行動）
６月２９日	アンカレッジ発
６月３０日	日本帰国

行動日程

５月２９日（火）

松本～成田空港～インチョン国際空港～アンカレッジ

この日は時差のため大変長い一日になった。早朝ぢゃんぼ（横山勝丘）に送ってもらう。ありがとう。ただ、「生きて元気に帰ろう」とおもった。

２人とも海外登山はもちろんのこと、海外旅行すらしたことがない。二人とも何もかもが初体験。何よりも英語。機内サービスで話しかけられても、さっぱり。「ぱぁどぅん？」すら言えない状態。

無事？にアンカレッジに到着した時に事件は起った。ペミカン没収!!海外初渡航らしいこの事件。肉はダメなんだって…。ショッキングな１日。（梶原）

松本をジャンボと井上に見送られて出発。新人合宿で不名誉な負傷を負った顔が心配。成田空港では、初めての飛行機体験だったので少々興奮気味。空港内を動き回った。英語のほうは「ぱぁどぅん梶原」に任せて飛行機内ではひたすら寝る。アンカレッジにつくと日本人の加藤さんが迎えに来てくれていた。その日は、加藤さんの車で登山用品店でスキーを借り、大型スーパーに行き今晩の飯をかう。時差ぼけか昼間なのに眠い。（松寄）

５月３０日（水）

登山準備

昨夜、時差ぼけのため夜中目覚めると、２３時に夕焼け。そして１時に朝焼け。驚いた。「遠くに来たなぁ」と実感。

宿泊先は加藤さんの B&B。かの有名な、植村直己さんも利用した所。日本から遥か遠いアラスカで日本食が食べられるのはありがたい。

準備は今日、明日の２日間の予定だったが予想以上に早く終わったので、明日タルキートナへ行くことに。しかし、体調が少し優れない。（梶原）

この日は一日準備に過ぎた。それにしてもアラスカのスーパーはすごい。でかいし品揃えも半端ではない。良くこんな脂っこいものを食べていられるな… 没収されたペミカンの代わりに脂身だけのベーコンを買う（後に大不評）。日本での下準備があったのでそれほど時間がかからず準備終了。明日タルキートナに行くことになり、日本のみんなにはがきを書く。緊張感が高まる。夜の９時を過ぎても明るい。（松寄）

５月３１日（木）

アンカレッジ～タルキートナ～ランディングポイント

昨日の予定通りタルキートナへ。タルキートナから先はセスナ機を使ってカヒルトナ氷河の上に着陸。セスナ機はジャンボジェット機とは違って飛んでいるという感覚がリアルだった。しかし!!感動に酔いしれているのも最初だけ。慣れない縦揺れのせいで、ゲロ酔いした。２人とも酔いを覚ます間もなく、テント設営へ。

明日から、いよいよ登山活動開始。決して無理をせず、安全に。そして何よりも楽しもう!!　（梶原）

当初の予定より三日早く入山してしまった。この日は、加藤さんの心のこもった日本食をいただいてから志村けん似のハスさんという方にタルキートナまで送ってもらう。タルキートナではレンジャーステーションにて登山申請などを済ませる。そして、いよいよ登山活動開始。ランディングポイントから眺める周囲の風景はまったく別世界にきたという感覚。遥かとおくにデナリの頂が見える。無事登頂…無事下山…（松寄）

６月１日（金）快晴

６：３０　起床
９：１０　ランディングポイント出発
１０：３０　カヒルトナ氷河出合
１６：４５　Ｃ１着

今朝起きると、Mt ハンターが聳え立っていた。海外はでかい。スケールが違う。ただ圧倒されるばかり。

氷河歩きはクレパスの危険があるため、スキーを履いての歩行。荷物は１人ザック２５ｋｇ、そり４０ｋｇ。おかげで慣れないスキーは転んでばかり。「せっー」っと滑って行く林太郎を横目にイライラが募るばかりだった。　（梶原）

今日から水分を大目に取る。慣れない橇とスキーなので時間を結構食う。しかし、天気は良く周りの景色は本当に最高。歩いていてわくわくしてくる。C1 直前では風が強くなり上のほうは雲がかかっていた。ひとたび荒れたらどんな事になるのかと少し心配になった。梶の咳がどうもおかしい。高度が上がる前に良くなってほしいと思った。（松寄）

６月２日（土）快晴

６：００　起床
８：３０　Ｃ１出発
１５：３０　Ｃ２到着
高度順応のため１００ｍアップ
１７：３０　Ｃ２到着

デナリ（６１９４ｍ）報告書

May.29th～June.30th

行動概要

５月２９日	日本発
５月２９日	（現地時間）アンカレッジ着
５月３０日	登山準備
５月３１日	アンカレッジ～タルキートナ～ランディングポイント
６月　１日	登山開始　L.P.～C１
６月　２日	C１～C２
６月　３日	C２～C３
６月　４日	C３より荷揚げ
６月　５日	沈殿
６月　６日	C３より荷揚げ
６月　７日	C３～B.C.
６月　８日	レスト
６月　９日	B.C.より荷揚げ
６月１０日	〃
６月１１日	レスト
６月１２日	〃
６月１３日	〃
６月１４日	B.C.～A.C.
６月１５日	A.C.～山頂～A.C.
６月１６日	A.C.～B.C.
６月１７日	B.C.～C１
６月１８日	C１～L.P.～タルキートナ
６月１９日	タルキートナ～アンカレッジ
６月２０日～	アラスカ観光（別行動）
６月２９日	アンカレッジ発
６月３０日	日本帰国

かりと気を引き締めて下山開始。それにしても荷物が重い。

このまま順調に下山すれば１週間ぐらいは遊べる。うーむ、何をしよう？どこか適当にヒッチハイクでもしよう。気ままに、のんびりと。 (梶原)

朝から頭が痛い。頭痛薬のお世話になる。日本では考えられないPM３：３０に出発する。BCに着くと本当に安心した。やっと頭痛が治った。(松寄)

６月１７日（日）快晴

１０：３０　起床
１４：５０　B.C.出発
１７：００　C3
１９：１５　C１到着

登りであんなに何日もかかった所が、わずか数時間で下山。スキーを履き、転びながら下りた。あまりにも早いと思った。C１にいたのは１７日前。あっという間だった。

明日は最後日。タルキートナでビールとピザ!!あー待ち遠しい。 (梶原)

スキーで下るのは楽しい。プラ靴は滑りにくいと思っていたが意外とうまく滑れる。スキーを頂上近くまで上げている人がいたけどかなり楽しそうだ。C1 にあっという間に着く。残ったガソリンで近くに違法に放置してあった大キジを燃やす。梶原君火遊びはいけませんよ…このころには現金なもので降りたら何をしようかという話ばかりだった。(松寄)

６月１８日（月）快晴

７：００　起床
８：５０　C１出発
１１：１０　L.P.到着
１３：４５　Take Off
１４：３０　タルキートナ到着

下山。なんとも心地よい、この達成感。すばらしい。「あー、終わった。」半年前、飲み会の席で話が始まり、それからの時間をこの山のために注いできた。セスナ機の中で、遥か遠くのデナリを見た時に、いい山だったと、終わったのだと思った。

タルキートナでは予定通りビールとピザを。「もうっ、最高!!」 (梶原)

帰りのセスナ機では行きの重苦しい雰囲気はなく開放感に満ちていた。外に見える風景は白から緑へと変わっていく。もう終わってしまったのだと実感した。それにしても、ピザはでかすぎる。アメリカ人はなんでもでかけりゃいいのか。

６月１９日（火）

タルキートナ～アンカレッジ

下山後の興奮で昨日はなかなか寝つけなかった。しっかし、この時期のアラスカはとにかく蚊が多い。外にいたら、何十匹も群がってくる。痒い。

今日も昨日に続き、アメリカ的な食事を堪能。ハンバーガーに、ポテトに、コーラ。この三点セット。８０歳ぐらいのじいちゃん、ばあちゃんもこれを食べているから本当に怖い。そのせいで３人に１人はちょっと体格のよろしい方。僕らも胃がもたれてきた。

２０日ぶりのアンカレッジ。また加藤さんの所に泊まる事に。加藤さんに会い、なんかとてもホッとした。さあ、明日からどこへ行こう？　（梶原）

昨日は一つのベッドに二人で寝た。下山後の興奮で眠れなかった？
アラスカ鉄道でアンカレッジへと向かう。（松寄）

６月２０日（水）～６月２８日（木）

二人別々にアラスカ観光

梶原の場合…

さすがに毎日顔を合わせていると嫌気が差して来る。ということで、二人別々になった。僕は夕焼けの綺麗な南の海を見に行こうと思い、ヒッチハイクでバルディーズという港町に行った。アラスカのパイプラインの終点であるこの町は小さく、こじんまりとしているが、静かで良かった。この町での～んびりと過ごした。とにかく、アラスカの自然は大きかった。その一言に尽きる。新婚旅行にまた来るかな…。（梶原）

松寄の場合…

遠くからデナリを眺めようと思い、ヒッチハイクでデナリ国立公園を目指した。レンジャーステーションでバックカントリーパーミッションなるものを取って、熊におびえながらツンドラの中に入っていったのはいいのだが、蚊が半端じゃない。歩いている時は止まることも許されず、テントの中にいると鳥肌が立つほど周りに蚊がいる。２日で敗退した。しかし、ここから眺めるデナリは絶景だった。登ったからかもしれないが…

６月２９日（金）、６月３０日（土）

アンカレッジ～インチョン国際空港～成田空港

聞き慣れた言葉が溢れていた。何よりも耳で帰国したことを感じた。すごく安心したのだけれども、アラスカでの刺激のある１ヶ月がちょっぴり寂しくも思えた。山ではなくても、海外に出るのは必要だと思った。また行きたいなぁ…　（梶原）

醤油の匂いがした。鼻で帰国したことを感じた。また、アラスカに行きたい。山じゃなくても

今日も沈殿。どうやら、金曜日まで天気は悪いらしい。１日何もせずに休んでいても、高度のせいか、狭苦しいテントのせいか余り体が休まらない。

天気予報だと金曜日に Snow Storm なるものが来るらしい。明日は天気が良さそうなのだが。明日 A.C.に上がるか、過ぎてから上がるか。結局 Snow Storm がいかなるものかを尋ねにレンジャーの所へ。「えくすきゅうずみぃ」…出て来たのはシャツの胸元をはだけさせた胸毛がセクシーなジャン・レノ似のレンジャー。彼が言うにはやはり止めておいた方が良いとの事。食糧はたくさんあるのでどっしりと腰を据えていこう。　(梶原)

夜半からの雪は激しく朝になっても一向に弱まる気配はない。即沈殿決定。本を読む。天気は水曜日に多少回復して、木曜日から土曜日にかけて SNOWSTORM が来るらしい。明日 HC に上がったら上で最低２沈することになる。嵐は BC でやり過ごして登頂を目指したほうが良いのだろう。(松寄)

６月１３日（水）晴れ

１０：００　起床
悪天のため沈殿
１４：００　引越し

予想していたよりも天気が良くなり、テントの中はまるで蒸し風呂。天気予報も Snow Storm が Possible Snow になっていた。天気予報は外れやすく、変わりやすいらしい。

今朝の目覚めは最悪だった。きっと人生ワースト１。そのモーニングコールは林太郎の脱糞の気張り声。テントのすぐ横で、僕の枕元で、テントの薄い布一枚を隔てたすぐそこで彼は脱糞をした。「うっ、くっ!!　あっ～」親しき中にも礼儀あり。　(梶原)

どうも天気予報は当てにならないらしい。それよりも体調が悪い。一人で、順応をする。BC の中を歩きまわっているといろいろな人たちがいる。そして、食糧ももらえる。１１歳の少年や７０歳近い人まで…梶原一騎先生ごめんなさい。(松寄)

６月１４日（木）快晴

７：３０　起床
１０：４０　B.C.出発
１６：３５　デポ地点
１７：３０　A.C.到着

いよいよ来た。A.C.だ。今日は風もなく、快適にここまで来られた。順応の方も問題なく体調もいい。後は明日の天気だけである。今、外は強風により地吹雪のようになっている。A.C.まで来るとさすがに士気も高まってくる。とにかく山頂へ。　(梶原)

体の調子が悪い。昨晩はほとんど寝ることができなかった。天気が良いのに救われた。風も前回ほどなかった。FIX 越えるのは本当にしんどかった。デポ地で荷物を回収するととんでもなく重く感じられた。ひとまず、HC に到着して一安心。頂上まであと一歩。ここで気を抜かないように、もう一度気を引き締めて、二人で山頂に立つ。さすがに５０００m。風が冷たい。ダウンを着てシュラフに潜り込む。(松寄)

６月１５日（金）快晴

７：３０　起床
１０：２０　A.C.出発
１１：５０　デナリパス
１６：４０　Summit（絶頂）
２０：３０　A.C.到着

朝起きると、昨日の風もなくド快晴。少し寝不足だったが、いざ山頂へ。5,800mくらいまでは調子良かったが、そこから先はフラフラ。酸素が足りない。とにかく眠かった。ヘッドウォールを登り、最後の頂上稜線を詰めると、そこはまさしく絶頂だった。林太郎と堅い握手を交わし、「ありがとう」と。そんな感慨にふけるよりも、何よりも早く下に下りたかった。とにかく下へ。テントに着く頃には空っぽといった感じ。しかし無事で何より。最高の一日だった。(梶原)

朝起きると快晴。エッセンをゆっくりする。周りのテントの中で一番最後の出発となる。荷物がかなり軽かったのでいつものペースで飛ばしてしまった。デナリパスを越した辺りから、ぜんぜんペースが上がらない。酸素薄いよ…６０００m を越すと頭も痛くなって来た。FOOTBALLFIERD から山頂がかなりとおくに感じる。一度追い越した人たちに抜かされる。梶に必死に着いていく。デナリ山頂直下の稜線を慎重に越える。あまり実感のないまま山頂に立つ。その時は、ひとまず写真を撮ることしか考えていなかった。疲れていたからだろうか。写真を撮り終えて梶と握手した時初めて実感が湧いて来た。そして、単純にうれしかった。そこからの下りは抜け殻のように何歩か歩いては立ち止まり時には座って、梶とは大分距離が開いてテントへと返って来た。二人で飲む暖かいおやつがなによりもうれしかった。(松寄)

６月１６日（土）快晴

１１：３０　起床
１５：１５　A.C.出発
１８：１５　B.C.到着

一晩寝ても、頭痛が治らない。こんな下山の日に事故は起きるのだろうと思った。しっ

かりと気を引き締めて下山開始。それにしても荷物が重い。

このまま順調に下山すれば１週間ぐらいは遊べる。うーむ、何をしよう？どこか適当にヒッチハイクでもしよう。気ままに、のんびりと。（梶原）

朝から頭が痛い。頭痛薬のお世話になる。日本では考えられないPM３：３０に出発する。BCに着くと本当に安心した。やっと頭痛が治った。（松寄）

６月１７日（日）快晴

１０：３０　起床
１４：５０　B.C.出発
１７：００　C3
１９：１５　C1到着

登りであんなに何日もかかった所が、わずか数時間で下山。スキーを履き、転びながら下りた。あまりにも早いと思った。C1にいたのは１７日前。あっという間だった。

明日は最後日。タルキートナでビールとピザ!!あー待ち遠しい。（梶原）

スキーで下るのは楽しい。プラ靴は滑りにくいと思っていたが意外とうまく滑れる。スキーを頂上近くまで上げている人がいたけどかなり楽しそうだ。C1にあっという間に着く。残ったガソリンで近くに違法に放置してあった大キジを燃やす。梶原君火遊びはいけませんよ…このころには現金なもので降りたら何をしようかという話ばかりだった。（松寄）

６月１８日（月）快晴

７：００　起床
８：５０　C1出発
１１：１０　L.P.到着
１３：４５　Take Off
１４：３０　タルキートナ到着

下山。なんとも心地よい、この達成感。すばらしい。「あー、終わった。」半年前、飲み会の席で話が始まり、それからの時間をこの山のために注いできた。セスナ機の中で、遥か遠くのデナリを見た時に、いい山だったと、終わったのだと思った。

タルキートナでは予定通りビールとピザを。「もうっ、最高!!」（梶原）

帰りのセスナ機では行きの重苦しい雰囲気はなく開放感に満ちていた。外に見える風景は白から緑へと変わっていく。もう終わってしまったのだと実感した。それにしても、ピザはでかすぎる。アメリカ人はなんでもでかけりゃいいのか。

６月１９日（火）

タルキートナ～アンカレッジ

下山後の興奮で昨日はなかなか寝つけなかった。しっかし、この時期のアラスカはとにかく蚊が多い。外にいたら、何十匹も群がってくる。痒い。

今日も昨日に続き、アメリカ的な食事を堪能。ハンバーガーに、ポテトに、コーラ。この三点セット。８０歳ぐらいのじいちゃん、ばあちゃんもこれを食べているから本当に怖い。そのせいで３人に１人はちょっと体格のよろしい方。僕らも胃がもたれてきた。

２０日ぶりのアンカレッジ。また加藤さんの所に泊まる事に。加藤さんに会い、なんかとてもホッとした。さあ、明日からどこへ行こう？　（梶原）

昨日は一つのベッドに二人で寝た。下山後の興奮で眠れなかった？
アラスカ鉄道でアンカレッジへと向かう。（松寄）

６月２０日（水）～６月２８日（木）

二人別々にアラスカ観光

梶原の場合…

さすがに毎日顔を合わせていると嫌気が差して来る。ということで、二人別々になった。僕は夕焼けの綺麗な南の海を見に行こうと思い、ヒッチハイクでバルディーズという港町に行った。アラスカのパイプラインの終点であるこの町は小さく、こじんまりとしているが、静かで良かった。この町での～んびりと過ごした。とにかく、アラスカの自然は大きかった。その一言に尽きる。新婚旅行にまた来るかな…。（梶原）

松寄の場合…

遠くからデナリを眺めようと思い、ヒッチハイクでデナリ国立公園を目指した。レンジャーステーションでバックカントリーパーミッションなるものを取って、熊におびえながらツンドラの中に入っていったのはいいのだが、蚊が半端じゃない。歩いている時は止まることも許されず、テントの中にいると鳥肌が立つほど周りに蚊がいる。２日で敗退した。しかし、ここから眺めるデナリは絶景だった。登ったからかもしれないが…

６月２９日（金）、６月３０日（土）

アンカレッジ～インチョン国際空港～成田空港

聞き慣れた言葉が溢れていた。何よりも耳で帰国したことを感じた。すごく安心したのだけれども、アラスカでの刺激のある１ヶ月がちょっぴり寂しくも思えた。山ではなくても、海外に出るのは必要だと思った。また行きたいなぁ…　（梶原）

醤油の匂いがした。鼻で帰国したことを感じた。また、アラスカに行きたい。山じゃなくても

個人の反省と感想

登頂の日から４ヶ月がたった。４ヶ月前に山頂にいたことが信じられない。特にこれといった実感もない。しかし、いい山だった。楽しかった。山岳会もこれでやってきたのだと思った。登るのに理屈は要らない。何より楽しいから。それだけだ。

この遠征に行くにあたって、たくさんの人の協力があった。OB や先輩方、１ヶ月もの間会の活動を支えてくれた現役部員のみんな、最後に林太郎。本当にありがとうございます。これからは４年として最後の年、この山の経験を生かしていけたらと思う。　（梶原）

今、原稿を書きながらあの時を思い出して見た。「楽しかった」という一言に尽きる。あの一ヶ月間なにもかもが、初めての体験ばかりで驚き困ることばかりだった。それが今となっては笑い話になってしまう。自分の中では、「たかがマッキンリー、されどマッキンリー」という言葉をいつも胸の中においていた。そのために、慎重すぎるかもしれないほど食糧の量を増やし装備も実際使わないようなものもあった。うーーーん重かった…
そして、２年前に登っている花谷さん、ボンドさんから海外旅行のイロハから登山活動について細かいアドバイスをいただいた。万全の体制で出発することができた。

実際の登山のほうは、何十年ぶりでアラスカの天気が良かったらしくほぼ計画どおりに行動することができた。人の多さには少々ひいたが日本の山にはない氷河、高度、景色、外人？を経験することができた。単純に海外の山に行ってみたいという馬鹿な発想の自分にとって本当に良い山だった。

遠征に行くに当たって、すんなり行くのを OK してくれた梶には感謝している。順調に準備ができて、登頂できたのも梶と一緒に行ったからだと思っている。また、計画、準備、装備に渡ってボンドさんには本当にお世話になった。ボンドさんの話がなかったらマッキンリーには行っていなかった。そして、アドバイスをしてくれた花谷さん、浩太郎さん、現役留守をしていただいた宮崎先生ありがとうございました。現役のみんなにも一ヶ月間でしたが外へ出させてもらって感謝しています。差し入れをくれたジャンボありがとう。

アラスカから帰ってきて４ヶ月がたち山に関しては現在腑抜け気味ですが、冬は着実に近づいてきています。現役最後の冬合宿が楽しみです。デナリの遠征も含めて今までの体験を生かすことが少しでもできればと思っています。　（松嵜）